

心をあわせ、心を届ける「うるうるパック」

2011年5月10日

特定非営利活動法人レスキューストックヤード (RSY)

このたびの東日本大震災では、何万人という被災者が一瞬で命を奪われ、大切なものを失いました。あの日から2カ月近くがたち、何とか学校が再開された地域でも、鉛筆やノートなどの学用品さえ手にすることができない子どもたちが大勢います。

当法人をはじめとした全国のNPOや企業有志でつくるネットワーク組織「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（通称・支援P）」は、大災害が発生するたびに、被災者が必要とする数種類の物資を被災地外で袋詰めして届ける「うるうるパック」の提供を行ってきました。

今回の震災では、主に子どもたち向けの学用品などを、4月上旬にまず東京でパック化し、岩手や宮城の被災地に届けています。

これに続く「第2弾」のパック化作業として、東京に集まったものの一部を名古屋に集約、東海地方の企業などから提供された物資と合わせて名古屋市内でボランティアらが袋詰めしたうえで、当法人が支援を続けている宮城県七ヶ浜（しちがはま）町の小中学校に送り届ける一連のプログラム「うるうるパック from なごや」を企画しました。

企画段階で、七ヶ浜町の被災地では子どもたちの多くが弁当箱や靴、傘などの日用品にも事欠くことがわかりました。これらの一部を日本経済団体連合会1%クラブの関連企業からもらい受けたうえで、それでもなお発生する不足分は、被災地内の業者から購入することにしました。全国から集まった支援金をこのように活用することで、被災地の経済的復興にもひと役買おうという試みです。

多大な関係者の協力によって完成する「うるうるパック」。手間ひまがかかる分だけ、一つ一つに被災者を思う心が込められます。



東京での第1弾パック化作業



名古屋での物資積みおろし

■経緯

- ・震災発生（3/11）
- ・東京で第1弾のパック化、6000セットが被災地へ（4/5）
- ・第2弾「うるうるパック from なごや」をRSYが担当することに決定
- ・東京の物資の一部が名古屋市港区の東海建設(株)へ。災害ボランティアが積みおろし（4/6）
- ・経団連1%クラブを通じて弁当箱や靴の提供呼び掛け
- ・不足分は「せんだい・みやぎNPOセンター」の紹介でいずれも仙台市のアールズ(株)、(株)奥田金物本店を通じて発注
- ・東海地方の企業関係者、一般ボランティアらが名古屋大学でパック化作業（5/6-8）
- ・宮城県七ヶ浜町の小中学校全5校と幼稚園などに配布（5/9-10）



■内容と数量

【文房具セット 2000（うち 700 をセケ浜町へ）】

ノート、鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、ボールペン、メッセージカード（うるうるパックのオリジナルシールを貼ったレジ袋にパック）

【日用品セット 2000（すべてセケ浜町へ）】

弁当箱、水筒、折りたたみ傘、名前シール、名前ペン、ミルクケーキ、メッセージカード（財団法人日本手芸普及協会から提供の手作りスクールバッグに袋詰め）

※このほか小中学生用に運動靴、長靴、長傘を直接配布。園児用にジグソーパズル、クレヨン、トランプ、キラキラ鉛筆、たまご型ホチキス、カラメルワッフル、教員用にチョーク、3色ボールペン、クリアファイル、朱肉などを箱詰めで配送。

■パック化作業

5月7、8日の両日、名古屋大学環境総合館のホールなどをお借りしてパック化作業を実施。

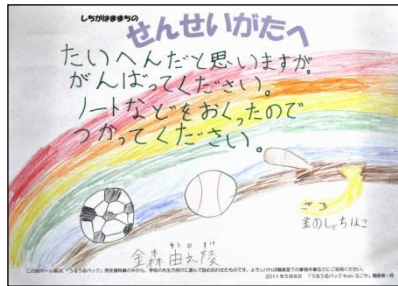
愛知県を中心とした 22 企業・グループの関係者と一般ボランティアが 2 日間で延べ約 250 人も参加してくださいました。

作業は弁当箱などの日用品のパック詰めから開始。小学校低学年の男女用、高学年の男女用、中学校の男女用の計 6 つの「ライン」にわかれ、サイズやデザインを確認して、一つ一つ色柄の違う手作りバッグに詰め込みました。

物品の組み合わせが複雑で、事務局による事前準備は手間取りましたが、始まってみるとさすが普段から仕事の効率化を追求する企業の方々。それぞれにやり方を工夫して、予想以上に作業ははかどり、初日の午前中にはおおかたの袋詰めが終わってしまいました。



初日午後からは文房具セットを作り始め、これも予想以上に作業が進展。2日目に作業を残すため、早めに切り上げなければならないほどでした。



翌日は保育園から小学生までの子どもたち5人も参加。教員用と園児用の段ボール箱に同封するメッセージを、思い思いの絵を添えて描いてくれました。

事務局スタッフによる七ヶ浜のライド上映会をはさみ、最後はバケツリレーで段ボールを4トントラックへ。会社や団体、年代などの枠を超え、心を一つにして七ヶ浜行きのトラックを送り出しました。



■現地での配布

七ヶ浜に運ばれたパックは、4月下旬に建設されたボランティア滞在拠点「日本財団ボランティアきずな館」に集められた長傘や長靴などと合わせて5月9日から10日にかけて、町教育委員会・大内課長補佐の同行の下、ボランティアの協力を得て町内の小学校3校、中学校2校や幼稚園などに配られました。

松ヶ浜小学校の鈴木睦夫校長はパックを手に取り、「一つ一つにまごころが込められていることがわかります。子どもたちは大喜びするでしょう。そして私たちは、やがて逆の立場に子どもたちがなれるよう、しっかり伝えていきます」と話されました。



■物資提供企業

【第1弾（東京）】

あいおいニッセイ同和損害保険(株)ゆにぞん募金、味の素(株)、SMBC日興証券(株)、花王(株)、(株)カネボウ化粧品、(株)神戸製鋼所、コクヨグループ、(株)小松製作所、JNC(株)、住友化学(株)、(株)全音楽譜出版社、(株)損害保険ジャパン、(株)第一ビルディング、立山科学工業(株)、電気事業連合会、東映アニメーション(株)、凸版印刷(株)、日中経済発展センター、日本生命保険(相)、日本たばこ産業(株)、日本ハム(株)、日本ベリサイン(株)、(株)ビジネスサポート、(株)ベネッセコーポレーション、三菱商事(株)、(株)明治、森永乳業(株)、(株)リソー教育 ほか

【第2弾（名古屋）】

(株)アシックス、住友化学(株)、中部電力(株)、TSUCHIYA(株)、帝人(株)、(財)日本手芸普及協会

■物資購入先

【仙台市】アールズ(株)、
(株)奥田金物本店
【名古屋市】イオンナゴ
ヤドーム前店、八事店

■パック化協力企業

アイシン・エイ・ダブリュ(株)、旭硝子(株)、伊藤忠商事(株)名古屋支社、宇部興産(株)名古屋支店、SMBC日興証券(株)、(株)NTTデータ、岡谷鋼機(株)、住友化学(株)(名古屋支店)グループ、(株)損害保険ジャパン、中部電力(株)、帝人(株)(帝人在宅医療株式会社)、東芝エレベータ(株)中部支社、トヨタ自動車(株)グループ、(株)豊田自動織機、(株)野村総合研究所、フィリップモリスジャパン(株)、ブラザー工業(株)、(株)みずほフィナンシャルグループ、三井住友海上火災保険(株)、三井物産(株)(含む関係会社)、三菱自動車工業(株)、三菱UFJ信託銀行

■特別協力

伊藤秀行様(ピーアイ物流企画)、飛田潤様(名古屋大学災害対策室)、東海建設(株)、東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや(事務局・名古屋市社会福祉協議会)

ご協力くださったすべての関係者の皆さまに、厚く御礼申し上げます

被災地の子どもに届け



学用品や日用品を入れて被災地に届けられる「レスキュー」の袋詰め作業の様子。ランテマのスタッフが千種区の名古屋大で

東日本大震災で被災した子どもたちへ文房具や日用品を届けようと、NPO法人「レスキューストックヤード」(東区)と県内21の企業の社員が7日、千種区の名古屋大で袋詰め作業を行った。

(西川正志)

宮城・七ヶ浜町へ

21NPO法人と
企業の社員と
文房具など
2000セット

「レスキュー」など全「い」の類いからだ。国のNPO法人や企業など袋詰めは、個人や世帯ごとで「災害ボランティア」に配りやすいようにする。ティア活動支援プロジェクトの目的。会議は1000名超の社員が参加。7月の熊平島地震や「ククト会議」(東京都)が七年の岩手・宮城内陸地を進める事業の一環。「津」八年の岩手・宮城内陸地を波で勉強道具が流された。震など全国で災害が起る子どもたちを支援したるたびに実施している。

支援一丸袋詰め

今回はノートや鉛筆などに取組んだ。どの学用品、弁当箱や水の「レスキュー」事務局簡易な日用品を、その関口威人さん(左)はそれ「一セットずつ袋詰め」予想以上に作業がスムーズにいった。物資は、会議の「一丸」に進んだ。こうい呼びかけに応じた企業や作業が、ばらばらだった提供された。宮城県七ヶ浜町のすべての町立小中学校に配布される。参加した伊藤忠商事名古屋支社(右)三輪佳子さん(中)「天白区」は「みんな」が被災地を応援している。声掛け合ったり、互いに。協力だけでなく、少しでも何らかの役に立ちたいを出したりしながら作業と話し。

2011年5月8日付
中日新聞朝刊市民版



特定非営利活動法人レスキューストックヤード

〒461-0001 名古屋市中区東区泉1-13-34 名建協2階

TEL: 052-253-7550 FAX: 052-253-7552

WEB: <http://rsy-nagoya.com/>

MAIL: info@rsy-nagoya.com